ALCE例会　日本語教師の専門性を考える

「日本語教師の専門性」の捉え方

2021年11月13日

古屋憲章

いきなり結論

日本語教師【中堅】に求められる資質・能力

表８

	知識	技能	態度
日本語教師【中堅】	**【１ 言語や文化に関する知識】** （１）日本語教育プログラムを策定する上で必要となる知識を持っている。 （２）国内外の外国人の状況や日本語教育施策に関する最新の知識を持っている。 **【２ 日本語の教授に関する知識】** （３）学習者の日本語能力を把握・分析し，適切な学習指導を行うための知識を持っている。 （５）日本語教育プログラム，教育活動，学習者の日本語能力について適切に評価を実施し，点検・改善を行う上で必要となる知識を持っている。 **【３ 日本語教育の背景をなす事項に関する知識】** （６）教室内外の関係者と学習者をつなぎ，学習者の社会参加を促進するための教育環境のデザインを行う上で必要となる知識を持っている。 （７）日本語教師（初任）及び日本語学習支援者に適切な助言を行う上で必要となる人材育成に関する基礎的な知識を持っている。	**【１ 教育実践のための技能】** （１）学習者及び関係者のニーズを踏まえ，日本語教育プログラムを策定し，運営することができるとともに，学習者の属性やニーズ等の変化に応じて臨機応変に日本語教育プログラムを調整する能力を持っている。 （２）日本語教育プログラムの中長期的な指導計画を策定する能力を持っている。 （３）日本語教育プログラムの目標に応じた学習者 習時間，到達目標に合致した教材を選択・作 きる。 本語教育プログラムを実施し，点検・評価を行い，改善を図る力を持っている。 （５）日本語教師（初任）及び日本語学習支援者に適切な助言をすることができる。 **【２ 学習者の学ぶ力を促進する技能】** （６）学習者の日本語能力を適切に把握・分析し，効果的な学習方法や教材等について多様な選択肢を提示することができる。 **【３ 社会とつながる力を育てる技能】** （７）日本語教育現場における課題，自らの専門性における課題を把握し，関係者や他分野の専門家や機関・団体等との連携・協力により課題解決に取り組むことができる。	**【１ 言語教育者としての態度】** （１）日本語教育の専門家（中堅）として，日本語教育の社会的意義についての自覚と情熱を有し，自身の実践を分析的に振り返るとともに，新しい知識を習得しようとするなど，常に学び続けようとする。 （２）日 本語学習支援者に対し 積極的に提供しよう 学び合い，成長 ように様々な方策 を たろうとする。 **【３ 文化多様性・社会性に対する態度】** （５）教育実践や課題，成果等を記録・発信し，教育実践の質的向上に生かそうとする。 （６）異なるビリーフを持つ関係者と円滑な関係を構築しながら，協力的に日本語教育プログラムを運営していこうとする。

日本語教師の専門性

＝

資質・能力のリスト

？

文化庁文化審議会国語分科会（2019）「日本語教育人材の養成・研修のあり方について（報告）改定版」、p.35

資質・能力のリスト

「準拠枠」としての資質・能力のリストの受容

一般的・静態的専門性観

- 第三者によって規定される固定的な資質・能力
- すべての（特定の分野で活動する特定の段階の）日本語教師に必要とされる

銀行型 日本語教師の専門性

私たちの専門性観

「参照枠」としての資質・能力のリストの受容

個別的・動態的専門性観

- 各々が自らの実践を通して作り上げていくプロセス
- 個々の日本語教師によって異なる

問題解決型 日本語教師の専門性

1.資質・能力のリスト

年	発行機関・文書名	背景	専門性
1985	文部省日本語教育施策の推進に関する調査研究会「日本語教員の養成について」	「留学生受け入れ10万人計画」に伴う留学生の多様化	・日本語や日本事情に関する知識・能力
2000	文化庁日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議「日本語教育のための教員養成について」	ニューカマーの定住化、及び外国人技能実習生、外国人児童生徒等の増加に伴う日本語学習者層の広がり	・日本語教員としての基本的な資質・能力 ・日本語教員の専門的能力
2018 2019	文化庁文化審議会国語分科会「日本語教育人材の養成・研修のあり方について（報告）改定版」	在住外国人のさらなる増加、在留目的の多様化→日本語教師の役割の多様化	・日本語の教授に留まらない教育全般に関わる要件 ・自身の専門性を絶えず更新し続ける人

2.資質・能力のリストの捉え方

「準拠枠」としての
資質・能力のリストの受容

- リストに「準拠」して資質・能力のリストをクリアすれば、〇〇の日本語教師になれる。

■ 個別性の捨象
■ 自身の変容の捨象

ぶっちゃけ、しんどい！

「参照枠」としての
資質・能力のリストの受容

- リストを「参照」して自分にとって必要な資質・能力を身に付ける。

● 個別性を失うことなくリストを活用
● 自身の教育実践や実践の省察の中でリストを活用

ぶっちゃけ、楽しい！

日本語教師【中堅】に求められる資質・能力

表８

	知識	技能	態度
日本語教師【中堅】	**【１ 言語や文化に関する知識】** （1）日本語教育プログラムを策定する上で必要となる知識を持っている。 （2）国内外の外国人の状況や日本語教育施策に関する最新の知識を持っている。 **【２ 日本語の教授に関する知識】** （3）学習者の日本語能力を把握・分析し，適切な学習指導を行うための知識を持っている。 （4）教材開発・編集・改善に必要となる知識を持っている。 （5）日本語教育プログラム，教育活動，学習者の日本語能力について適切に評価を実施し，点検・改善を行う上で必要となる知識を持っている。 **【３ 日本語教育の背景をなす事項に関する知識】** （6）教室内外の関係者と学習者をつなぎ，学習者の社会参加を促進するための教育環境のデザインを行う上で必要となる知識を持っている。 （7）日本語教師（初任）及び日本語学習支援者に適切な助言を行う上で必要となる人材育成に関する基礎的な知識を持っている。	**【１ 教育実践のための技能】** （1）学習者及び関係者のニーズを踏まえ，日本語教育プログラムを策定し，運営することができるとともに，学習者の属性やニーズ等の変化に応じて臨機応変に日本語教育プログラムを調整する能力を持っている。 （2）日本語教育プログラムの中長期的な指導計画を策定する能力を持っている。 （3）日本語教育プログラムの目標に応じた学習者の学習時間，到達目標に合致した教材を選択・作成できる。 （4）日本語教育プログラムを実施し，点検・評価を行い，改善を図る力を持っている。 （5）日本語教師（初任）及び日本語学習支援者に適切な助言をすることができる。 **【２ 学習者の学ぶ力を促進する技能】** （6）学習者の日本語能力を適切に把握・分析し，効果的な学習方法や教材等について多様な選択肢を提示することができる。 **【３ 社会とつながる力を育てる技能】** （7）日本語教育現場における課題，自らの専門性における課題を把握し，関係者や他分野の専門家や機関・団体等との連携・協力により課題解決に取り組むことができる。	**【１ 言語教育者としての態度】** （1）日本語教育の専門家（中堅）として，日本語教育の社会的意義についての自覚と情熱を有し，自身の実践を分析的に振り返るとともに，新しい知識を習得しようとするなど，常に学び続けようとする。 （2）日本語教師（初任）や日本語学習支援者に対して，振り返りや学びの機会を積極的に提供しようとする。 （3）学習者や他の日本語教師と共に学び合い，成長していこうとする。 **【２ 学習者に対する態度】** （4）学習者が学びに向き合えるように様々な方策を用いて，共に課題解決に当たろうとする。 **【３ 文化多様性・社会性に対する態度】** （5）教育実践や課題，成果等を記録・発信し，教育実践の質的向上に生かそうとする。 （6）異なるビリーフを持つ関係者と円滑な関係を構築しながら，協力的に日本語教育プログラムを運営していこうとする。

文化庁文化審議会国語分科会（2019）「日本語教育人材の養成・研修のあり方について（報告）改定版」、p.35

3.日本語教師の専門性観

「準拠枠」としての
資質・能力のリストの受容

一般的・静態的専門性観

- 第三者によって規定される固定的な資質・能力
- すべての（特定の分野で活動する特定の段階の）日本語教師に必要とされる

「参照枠」としての
資質・能力のリストの受容

個別的・動態的専門性観

- 各々が自らの実践を通して作り上げていくプロセス
- 個々の日本語教師によって異なる

3.日本語教師の専門性観

銀行型 日本語教師の専門性

- 専門性は固定的な知識・技能として外部にあり、教師はそれを取り込む。
- 基本的に受動的になる。

問題解決型 日本語教師の専門性

- 専門性は個々の教師が自ら作り上げていくプロセス。
- 知識・技能を能動的に創り出す。

資質・能力のリスト

「準拠枠」としての資質・能力のリストの受容

一般的・静態的専門性観

- 第三者によって規定される固定的な資質・能力
- すべての（特定の分野で活動する特定の段階の）日本語教師に必要とされる

銀行型 日本語教師の専門性

私たちの専門性観

「参照枠」としての資質・能力のリストの受容

個別的・動態的専門性観

- 各々が自らの実践を通して作り上げていくプロセス
- 個々の日本語教師によって異なる

問題解決型 日本語教師の専門性

資質・能力のリスト

「準拠枠」としての資質・能力のリストの受容

一般的・静態的専門性観

- 第三者によって規定される固定的な資質・能力
- すべての（特定の分野で活動する特定の段階の）日本語教師に必要とされる

従属的・他律的日本語教師

私たちの専門性観

「参照枠」としての資質・能力のリストの受容

個別的・動態的専門性観

- 各々が自らの実践を通して作り上げていくプロセス
- 個々の日本語教師によって異なる

主体的・自律的日本語教師

そもそも我々は
主体性や自律性を
おざなりにしてきたのでは？

次に続く

参考文献

フレイレ，パウロ（2011）『新訳　被抑圧者の教育学』（三砂ちづる訳）亜紀書房（原著　Freire Paulo,Pedagogia do Oprimido 46ª edição,2005,Paz e Terra.）

文化庁文化審議会国語分科会（2019）「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/r1393555_03.pdf（2021年11月12日参照）